

No. 1354

春を呼ぶ円月太鼓

—和歌山・白浜—

黒潮に洗われる南国の町、紀伊白浜。長く続く海岸線は自然の創り出したモニュメント。浜木綿と温泉の町に生きる若者たちが、町に伝統芸能を何か残したいと数年前から太鼓を打ち始めた。太鼓はこの町で最も美しい島、円月島にちなんで“円月太鼓”と付けられた。若者たちが舞い、太鼓が打ち寄せる波と調和する。そこにはもう春の気配さえ感じられる。

滑ってころんで!!

—長野・東山高原—

暖冬異変が続く日本列島。各地のスキー場は雪不足に悩まされています。そんな折、ここ信州の東山高原スキー場では人工雪を降らせるスノーマシンが大活躍。10台のマシンの威力で白一色の冬景色とはいかないものの、見事なゲレンデが出来上がり一足早いスキー場開きが行われました。テープカットが行われると、空からは春のような日ざしを受けてハンググライダーが祝賀飛行。この日を心待ちにしていたスキーヤーたち約3,000人が朝早くからつめかけ、オープンと同時に、思い思いのシュプールを描き、白銀の世界を楽しんでいました。滑ってころんでまた滑べる。なかなか、思うようにはいきません。ようやく北国から雪の便りが聞こえはじめました。本格的なスキーシーズンも、もうすぐです。

陶芸に生きる

—愛知・瀬戸—

やきものの町として知られる愛知県・瀬戸市。良質な陶土に恵まれ、縄文・弥生の古い時代からやきものが焼き続けられてきた。今日では市の商工業関係の70~80%が窯業関係者である。この町に住む山田朝春さん。瀬戸陶芸作家の中で陶彫を専門に製作してきた異色の作家である。やきものは茶陶といわれ、昔から華道や茶道の附属のように考えられていたが、山田さんは陶彫という新しい分野を考え、彫刻を学び土で造れるものはなんでも造れる陶工としてこの道一筋45年間歩いてきた。土のやわらかさを生かし、また釉薬によって美しさを加えた作風は、人々の心に強く語りかける造型の美をたたえている。